

肢体不自由のある子どもの 障害理解と支援のポイント



香川県立高松支援学校
自立活動室



肢体不自由とは

身体の動きに関する器官が、病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態をいう。

文科省 障害のある子供の教育支援の手引き

～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ より

障害の状態は一人一人違うものだが、障害に見られる行動や認知の特徴として、共通するような**特性**がある。



肢体不自由の特性

- 上肢障害
- 下肢障害
- 体幹保持困難



見て分かる障害

本校HPより



肢体不自由の特性

- 言語障害、コミュニケーション障害
- 視覚障害、視覚認知の障害
- 感覚や認知の特性
- 経験不足

(視点がないと)
見つけにくい障害



肢体不自由の特性

起因疾患の種類によってもそれぞれ

- 脳性まひ（痙直・アテトーゼ・失調）
- 二分脊椎
- 筋ジストロフィー
- 骨形成不全症
- 外傷後遺症 など

知的障害、てんかん発作 などの合併
筋肉の短縮、関節拘縮、側わん、脱臼 などの二次障害



肢体不自由の特性

特性を理解するためには

医療機関等からの情報の把握

起因疾患の知識、治療や検査の結果、リハビリの状況、健康状態の確認、緊急時の対応 など

○個別の教育支援計画の確認・引き継ぎを確実に行う

心理学的、教育的側面からの把握

食事・睡眠・排せつなどの生活リズム、姿勢、運動・動作、意思の伝達能力と手段、感覚機能の発達、知能の発達、情緒の安定、社会性の発達 など

○自立活動の6区分の視点で実態を把握する



具体的な支援のポイント

①適切な身体援助

移乗・移動、着替え、靴の履き替え、食事、排せつ

* 日常的に行なっている身体援助も子どもにとっては学習活動の一つ

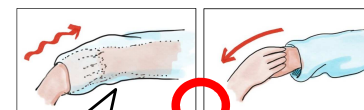
* 心地よい援助

人への信頼感、体の動かし方、コミュニケーション



①適切な身体援助

着替えの時の注意点

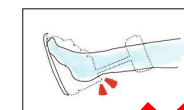


服の中で
指先を包み込み
保護しましょう

「脱健着患」



くつや装具を履く時の注意点



サイズの確認
膝をまげるとかかと
が入りやすい
靴の中の指に注意

②環境設定と支援の工夫

教室の様子



②環境設定と支援の工夫

教室の様子

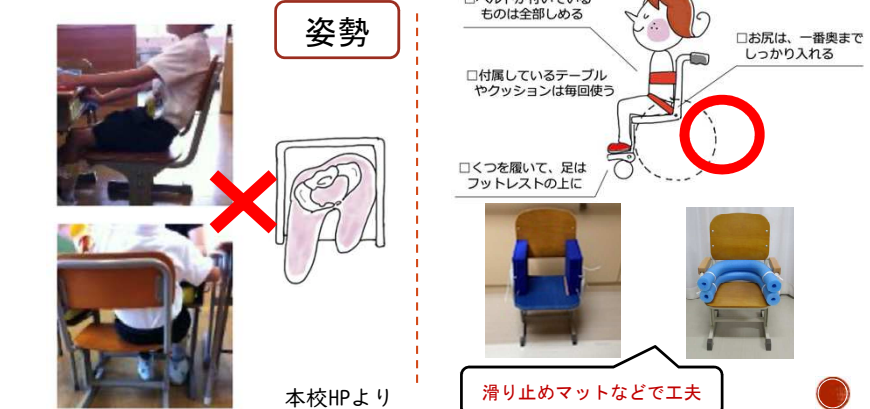


②環境設定と支援の工夫

教室の様子



②環境設定と支援の工夫



②環境設定と支援の工夫

いろいろな食具



エジソン箸
https://edisonmama.com/chopsticks/

クリップ付の箸 着脱式のスリッパが付いており箸がばらばらにならないようになっています。握力が弱かったり、細かい作業が苦手なお子さんでも食べ物がつまみやすくなっています。	平らな先のスプーン スプーンの先が平らになっていることで、食べ物がすくいやすくなっています。	持ちやすいスプーン 輪のところに手を入れてスプーンを握るため、落とすにくく力の弱いお子さんでも使いやすくなっています。	便利なグッズ シリコングリップ スプーンなどの柄にくるくる巻きつけるだけで、ほどよい太さになり握りやすくなります。シリコン製で滑りにくくなっています。
挟めるスプーン お箸とスプーンが一体になっており、すくう、挟む、切る等ができます。特に片まひのお子さんに便利です。	ネックが変形するスプーン ヘッドの部分が前後左右に自由に曲がるため、お子さんの動きに合わせて変形することができます。	シリコンスプーン シリコンでできているため口当たりがソフトです。ただ、噛み込みのきついお子さんは、噛み切るおそれがあるので使用できません。	

本校HPより



②環境設定と支援の工夫

いろいろな食具

ヒント④ 自助食器



スプーンなどですくいやすい形状になっています。また、食器のリムが広くなっており、手を添えやすくなっています。裏には滑り止めがついており、食器がずれにくくなっています。

便利なグッズ 滑り止めシート

食器の下に敷くと食器がずれるのを防止してくれます。食器を支えることが難しいお子さんに便利です。

牛乳パックホルダー



力加減が難しいお子さんや力の弱いお子さんに利用します。

本校HPより



②環境設定と支援の工夫

排泄つ（トイレ）

(1) 改造トイレ 一般の洋式トイレに、安全バーや背もたれ、ベルトなどを付けて、安全に座ることができるようになっています。	(2) ポータブルトイレ (参考:快適空間スクリオ) 自由に置き場所を変えることができます。いろいろなタイプのものがあるので、設置場所や身体状況に合わせて選びます。	(3) トイレットチェア (参考:有園製作所) 身体の小きなお子さんがトイレトレーニングをする際に使用します。背もたれや机などがついており、姿勢が崩れやすいお子さんにも座ることができます。	(4) 幼児用の便座 お尻が便座から落ち込みそうになっているお子さんに使用します。携帯用があり、付け外しが可能です。
--	--	--	---

本校HPより



②環境設定と支援の工夫

書字の支援（補助具）

グリップを太くする



握りを太くすると握る力が鉛筆に伝わりやすく、余分な力がいらなくなるので書きやすくなります。太い鉛筆を使う方法と、鉛筆に太いグリップを付ける方法があります。

手のひらの空間を埋める



鉛筆を握るときは手のひらと指の間に空間を作る必要があります。力の調整が難しいお子さんはこの空間を作っておくことが難しくなります。何かを握って空間を埋めることで書きやすくなります。市販品もあります。

バインダーで紙を固定



片手だけで字を書いたり消したりしてみてください。紙が動いてやりにくくはなりません。利き手でない方の手はとても大切な役目をしています。それを補う工夫が必要です。

すべり止めマットを使う



最近では、字を書くのに適した滑り止めマットも市販されています。特に片麻痺のある子どもには必需品と言えるでしょう。

本校HPより



②環境設定と支援の工夫

書字の支援

書くことにこだわらない学習方法を

通常は、学年が上がると書くことから、考えたり表現したりすることにバリエーションを傾けられるようになっていきますが、肢体不自由のある子どもでは書くことの負担が減るどころか増える一方です。自分が書いた内容の見直しや、書き直しなど、考えを深める作業を妨げられ、二次的な不利益を生じます。書くことは学習の手段の一つであって、学習の中心ではありません。「書くことができるかどうか」ではなく「流暢に書くことができるか」「書く様子を見るようにしてください。そして手段を柔軟に用意してください。」



代筆による支援

頑張っているうちに授業が進んでしまふ。せっかく書いたノートは復習に使えない・・・そんな子はいませんか。



PCやタブレット端末の利用



書いたり消したりする負担を軽減し「じっくり考える」「納得いく作文を書く」ことに役立ちます。活用方法は、高松支援学校にご相談下さい。

香川県教育委員会
ICT教材等データベースより



ICTの活用

資料は本校HPより

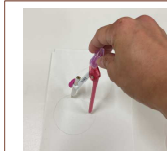
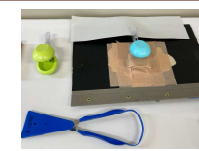


②環境設定と支援の工夫

作業の支援（補助具）



はさみを使うことができて、紙などを持つことが難しい場合は、台を工夫することで、片手でも切ることができるようになります。はさみの開閉が難しい場合は、開く動きを助けてくれるはさみ、手のひらで押すことで切ることができるはさみなど、いろいろな種類のはさみがあります。



コンパスを指先でつまんだまま回転させるのは、とても難しい動きです。このコンパスは握って傾けるだけで、簡単にきれいな円が描けます。



穴あけパンチで穴を開けるための支援グッズです。角を合わせて合に合わせるだけで、ぴったり真ん中に穴を開けることができます。片手でも操作できます。

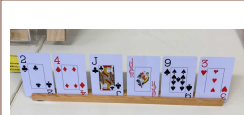


②環境設定と支援の工夫

コミュニケーション・遊ぶ工夫（補助具）



VOCA（音声出力型コミュニケーションエイド）
音声を録音しておくと、スイッチを押すだけで音声を再生することができます。発声や発語が難しい子どもでも、押すだけでコミュニケーションを学んだり楽しんだりすることができます。



木に斜めに切れ目が入ったカードスタンドです。これを使うことで、指先でカードを複数枚持つ必要がなく、トランプなどのカードゲームを気軽に楽しむことができます。

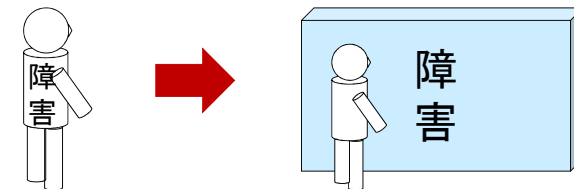


スイッチをおもちゃに繋いでいます。スイッチを押すと音楽とともにおもちゃが動き始めます。タイマーを繋いで遊ぶこともでき、押すと何かが起こるという因果関係を学習することができます。



まとめ

肢体不自由は、何かを「したい」とき
「しなくてははいけない」ときに表れる障害



身体にではなく、環境に障害があると考え、
その乗り越え方はアイディア次第



「できる」の考え方

本人の力

支援・環境調整



「本人の力」と「支援や環境調整」両方の視点が大切
時と場合によって、その割合は常に変わる
支援が必要かどうかは子ども自身が決める



環境や支援の工夫によって
なくしたり減らしたりできる「障害」



教育の出番・役割がある

